



学校だより



6月号

令和8年(2026年)
5月29日(金)

横浜市立洋光台第二小学校

「YSFで見られた子どもたちの姿から」

学校長 のむら ひかる
野村 光

初夏のさわやかな風を感じる季節となりました。保護者・地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

5月15日には栗木学援隊の年度初め総会が栗木会館で行われました。栗木学援隊の皆様が長年にわたり活動を続けてこられ、本校の見守りは20年目を迎えています。当日は、子どもたちの安全を支えてきた歩みや日々の見守りのご苦労についてお話を伺い、改めて深い感謝の思いを抱きました。また後日、通学路の見守りの様子を拝見しましたが、狭い道路や交通量の多い場所において、丁寧に声をかけながら子どもたちを導いてくださっている姿が印象に残っています。こうした栗木学援隊の皆様の活動に加え、洋光台学援隊や保護者の見守り活動など、多くの方々に支えられながら、子どもたちの安全が守られていることを実感しています。

さて、5月23日(土)に実施したYSF(洋二小スポーツフェスティバル)は、「スマイルいっぱい! 全力で楽しむYSFにしよう!!」のスローガンのもと、子どもたち一人ひとりが輝く行事となりました。練習や準備の場面では、1年生の椅子出しに6年生が寄り添ってやさしく手伝う姿や、高学年の子どもたちが自分たちの役割を自覚し、進んで準備や運営に取り組む姿が見られました。当日も、競技や演技だけでなく、友だちを応援する様子や整然とした行動など、さまざまな場面に子どもたちの真剣な姿が表れていました。

来場された地域の皆様からは、「子どもたちがつくる運動会であることがよく伝わってきた」「委員会の子どもの動きがきびきびとしていて素晴らしい」といった温かいお言葉もいただきました。子どもたちの主体的な姿が、多くの方々の心にも届いていたことを大変うれしく思います。

本校では、「子どもを主語とした授業づくり」に取り組んでいます。子ども自身が問いをもち、考え、仲間と関わりながら学びを深めていくことを大切にしています。YSFで見られた姿は、日々の授業での取組が少しずつ力となって表れてきたものと感じています。

地域に見守られる日々と、YSFで見られた子どもたちの主体的な姿はつながっています。温かな関わりの中で育まれた力が、学校生活のさまざまな場面に確かに息づいていることがうかがえます。今後も、子どもたちが安心して挑戦し成長できる学校づくりを進めてまいります。引き続き、保護者・地域の皆様の温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

